

Yumeken

春

2016 Vol.683

◆特集○話題の焦点

滋賀県危機管理センターの果たす役割

◆夢インタビュー

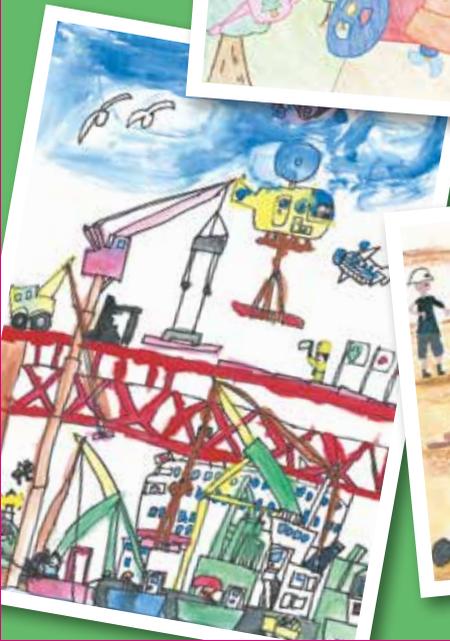
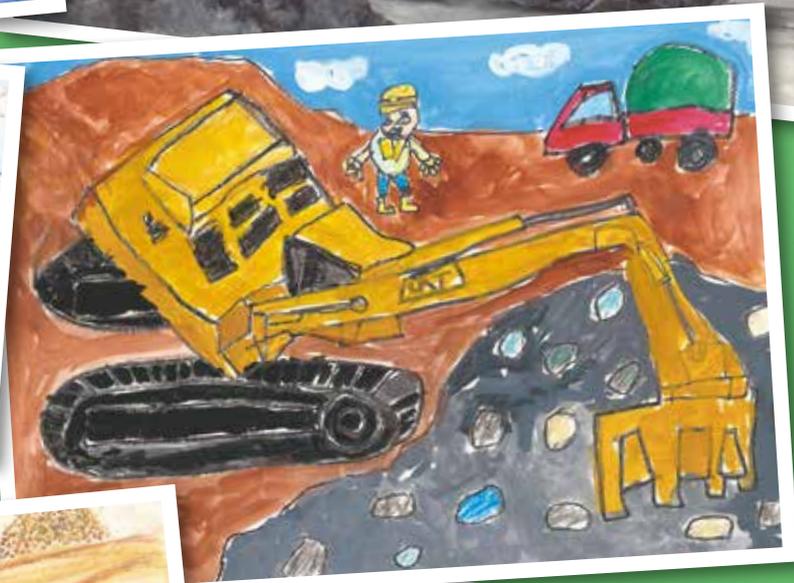
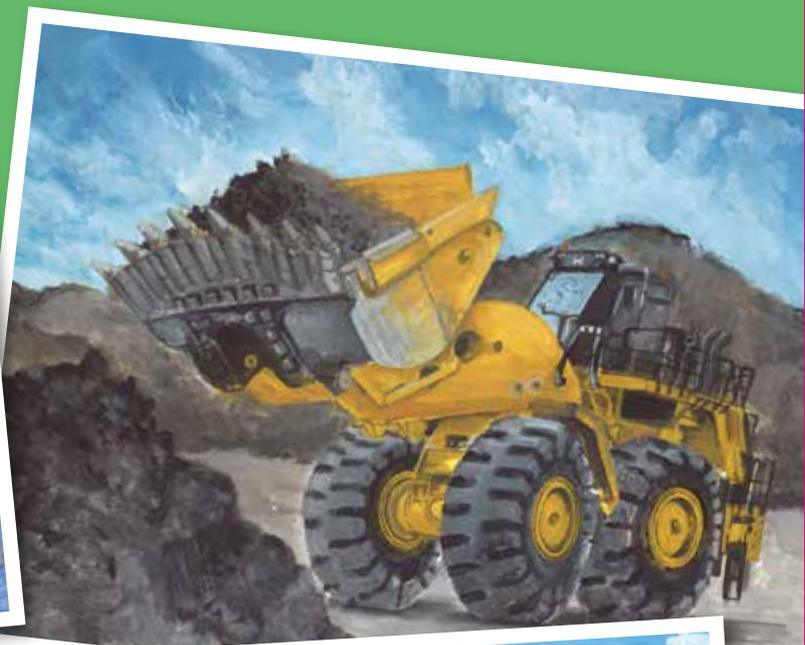
地酒にまつわるイベントで長浜の魅力を発信

◆行ってみよう

近代化産業遺産を訪ねる琵琶湖疏水ウォーク

◆おじゃまします

株式会社 高陽建設



滋賀県危機管理センターの果たす役割

地震や台風などの自然災害や、大規模な事故やテロといった危機事案が発生した時に、危機管理の拠点となる滋賀県危機管理センターの運用が、平成28年1月から始まりました。

センターはいつ起こるかかわからない危機事案に、24時間365日体制で備えるだけでなく、普段から関係者や県民を対象とした研修・交流などに取り組むことで、地域防災力を高める役割も担っています。

今回は滋賀県建設業協会広報委員会のメンバーがセンターを見学して、西川美則防災危機管理監に、その特徴や研修・交流機能についてお話をうかがいました。



滋賀県危機管理センター

大津市京町四丁目1-1

開館時間：平日 9:00~17:00

※1階エントランスロビーの展示は土日も見学可

<http://www.pref.shiga.lg.jp/c/shobo/kikikanri-center/kikikanricenter-top.html>

問い合わせ：滋賀県防災危機管理局

077-528-3438 (展示・見学)

077-528-3430 (会議室利用)

また、停電になっても、センターの機能が維持できるように非常用発電機が設置されているほか、断水時にも必要な水が確保できるように、受水槽や防災井戸が設けられています。また、緊急用の汚水槽や排水リサイクルシステムによって、公共下水道が使えない時もトイレが利用でき



危機管理センターの免震装置 (左から「オイルダンパー」「積層ゴムアイソレーター」「U型鋼材ダンパー」)

さまざまな事案に危機管理拠点として対応

滋賀県危機管理センターは、地震や風水害などの自然災害のほか、原子力災害、大規模な火災や事故、テロ、新型インフルエンザの大流行など、さまざまな危機事案が発生した時、県の職員や自衛隊、警察、消防、DMAT(災害派遣医療チーム)、災害ボランティアセンターなどの防災関係機関が集結して、的確な対応を行うための危機管理拠点となります。

地上5階建ての建物は、大地震が起してもセンターの機能を保てるよう、免震構造が採用されています。地面と建物の間に設けられた免震層では、積層ゴムアイソレーター、U型鋼材ダンパー、オイルダンパーの3種類の免震装置が地震のエネルギーを吸収し、揺れを建物に伝わりにくくすることで、阪神・淡路大震災クラスの震度7の揺れを震度4程度にまで軽減することができま



地元の特産品や食品がずらりと並ぶ物販コーナー



廃校になった中学校を再整備した施設

湖国 街かどウォッチング

新しい施設や街の話題をレポートするコーナーです。

道の駅 奥永源寺溪流の里(東近江市)

廃校になった旧政所中学校を再整備して誕生した「道の駅 奥永源寺溪流の里」。滋賀県と三重県の県境近くにあり、施設の周辺には澄み切った愛知川の源流が流れる山村の自然豊かな風景が残されています。

幻の銘茶「政所茶」の産地としても知られているほか、9世紀に近江国蛭谷(現・滋賀県東近江市蛭谷町)で隠棲していた惟喬親王が周辺の柚工(伐採や製材に従事する者)に轆轤を用いて木製



イベントで地元の特産品をアピール

のお椀や盆などを作る木工技術を伝授したことから始まり、その技術が日本各地に伝わったとされることから、「木地師」発祥の地と言われています。情報コーナーと物販・特産品コーナーでは、永源寺こんにやくや政所茶、永源寺米などの特産品のほか、新鮮な野菜や東近江市内で加工された食品、木工製品が店頭並び、モンベル社の登山やアウトドア用品なども販売されています。

また、24時間利用可能な快適な公衆トイレや大きな駐車場、地元食材を使ったメニューなどを提供する2つの軽食・喫茶の店舗



イベントでは溪流魚の料理体験も

など従来の道の駅の機能に加え、旧校舎の建物内には市役所出張所、「コミュニティセンター」、診療所が入っていて、地域住民の生活を支える防災や医療、行政機能などの役割も兼ね備えた施設になっています。

建物の前面には木製アーケードと多目的棟が整備され、イベントスペースとしても活用されています。

そして、地域の人が道の駅を盛り上げようと結成した組織「道の駅サポーターズ」が、企画や運営面に積極的に関わっている取り組みも大きな特徴になっています。

東近江市夢畑町510番地
0748-29-0428

<http://www.city.higashiomi.shiga.jp/category/14-0-0-0-0.html>

●物販・飲食コーナー営業時間
・4月~11月 9:00~17:00
・12月~3月 9:00~16:00

●定休日
・火曜日
(火曜日が祝祭日と重なる場合は営業。翌日が振替定休日)
・年末年始(12/29~1/3)

CONTENTS



2016 Vol.683 春

湖国街かどウォッチング……………2
道の駅 奥永源寺溪流の里……………2
特集・話題の焦点……………3
滋賀県危機管理センターの果たす役割……………6

夢インタビュー……………6

地酒にまつわるイベントで長浜の魅力発信……………7

長浜ハイオ大学「長浜魅力づくりプロジェクト」のみなさん……………7

ビジネス最前線……………7

地域の活性化を目指し、桑栽培を復活……………8

行ってみよう……………8

近代化産業遺産を訪ねる琵琶湖疏水ウォーク……………8

おじやまします……………10

株式会社 高陽建設……………10

絵画コンクール入賞作品……………12

ここが知りたいものづくり……………15

アスファルトってなんだろう……………15

夢けんひろば……………16

「仕事の達人・遊びの達人」……………18

安田 勉……………18

クイズ……………18

近江つまいもの紀行……………19

編集後記……………19

表紙写真……………19

「ついでに」油圧ショベル 榎本 敬人……………19

「新しい町づくり」かんぱれ!ショベルカ! 山本 萌愛……………19

「車や電車が走る橋を作る工事」古武家 敬也……………19

「海の街 建設中」小西 登斗……………19

「はたらき」ヘルカ! 小島 涼雅……………19

「工事現場の車」山口 千宙……………19

「ホイールローダー」八木せくら……………19

「解体・造成・建築」横山 松吾……………19

「家が建つ」櫻井 淳央……………19

「ワルトフロホットOSYAKAくん」井上 聖花……………19

滋賀県危機管理センターの果たす役割

その周辺にはいくつもの活断層があるほか、「南海トラフ地震」が起



地震の発生について説明する模型は、建設業協会から寄贈されたもの。

立つ情報を紹介するパネル展示のほか、かまどベンチや防災グッズ、液状化現象など災害のメカニズムを学習できる装置などが展示されています。土日も開放されているので、気軽に立ち寄って防災について学べるようになっています。エントランスロビーは、災害時にはボランティアセンターが開設されることになっています。

1階フロアでは、県や市町、関係機関・団体への研修会のほか、県民や自主防災組織のメンバーを対象にした研修を実施して、地域防災力を高めたり、防災関係団体などが集まって情報交換や交流を行うためのスペースとして活用されています。

滋賀県内やその周辺にはいくつもの活断層があるほか、「南海トラフ地震」が起

研修・交流スペースを県民に開放

1階にあるプレスセンターは、災害時には記者発表を行う場として活用されますが、平時には大会議室として防災に関する研修など、一般の人にも利用できるようになっています。



普段は会議室として利用できるプレスセンター

●滋賀県で起こった主な災害

昭和28年	多羅尾豪雨	死者45人	けが143人	壊れた家屋240戸
	台風13号	死者47人	けが497人	壊れた家屋1,720戸
昭和34年	伊勢湾台風	死者16人	けが114人	壊れた家屋1,651戸
昭和36年	第二室戸台風	死者3人	けが438人	壊れた家屋3,998戸
昭和56年	五六豪雪	死者5人	けが91人	壊れた家屋2,961戸
平成3年	信楽高原鉄道列車衝突事故	死者42人	けが614人	
平成25年	台風18号	死者1人	けが9人	壊れた家屋728戸

この場合は滋賀県内でも大きな揺れが予想されています。さらに、滋賀県の一部が福井県にある原子力発電所の30キロ圏内に入っていることから、原子力災害への対応も重要になると考えられます。県内6カ所に原子力防災用モニタリングポストを設置して、放射線量をつねに測定しています。原子力発電所でトラブルが発生した場合、滋賀県は国や市町、原子力事業者、報道機関と情報共有を図りながら、屋内退避や避難などの指示を発信することになっています。

展示コーナーでは、生活防災に役立つ情報や原子力災害の基礎知識などを学ぶことができます。県民の一人ひとりが危機について学び、災害に備えることで、危機に対応する力を高められるのではないのでしょうか。



防災減災、災害復旧を担う地域の建設業

滋賀県建設業協会会長 本庄 浩二

平成25年9月15日に滋賀県を襲った台風18号は記録的な大雨をもたらし、各地で河川が氾濫し、多くの浸水被害が発生したことは、記憶に新しいかと思えます。

当協会では、16日早朝の滋賀県災害対策本部からの救援要請に応じ、延べ23社の会員企業が、延べ6、106人の作業員、2、043台の重機、2、085台のタンクを使い、雨で



県の防災訓練で、重機による埋設車両の救出訓練に参加

当協会では、「環境保全」「雇用改善」そして「防災減災」の3つのテーマを柱に、様々な活動に取り組んでいます。

「防災減災」への取組には、県や各自治体で行われている防災訓練への参加や、滋賀県建設産業団体連合会が実施する「かまどベンチ設置」への協力などがあげられます。また、平時から防災減災に不可欠なインフラの整備や、冬季の除雪対応を担うことも、県民の安心・安全を担保するために必要な活動です。

そして、災害発生時、最初に現場へ駆けつけ、応急復旧に携わるのが、我々建設業の使命です。

平成25年9月15日に滋賀県を襲った台風18号は記録的な大雨をもたらしたことは、記憶に新しいかと思えます。

当協会では、16日早朝の滋賀県災害対策本部からの救援要請に応じ、延べ23社の会員企業が、延べ6、106人の作業員、2、043台の重機、2、085台のタンクを使い、雨で

めかると県内各地の被害現場で復旧作業に従事しました。

災害時に建設業が最も重要視される理由が、実は、自衛隊や警察消防などの救助隊が現場に入るための道を確保する「啓開」であることが、残念ながらあまり知られていません。道や地形を熟知している建設業だからこそ、救助隊には実施困難な「復旧への道筋」を作れるのです。

危機管理センターの開設は、災害時の情報伝達や連携方法に関する訓練を行う場として非常に意義の高いことであり、当協会や会員企業も加わった戦略的な災害対応の体制構築に寄与すると大きく期待しています。

しかし今、建設業界は人材不足という深刻な課題に直面しています。想像してみてください。足元が不安定な災害現場で重機を手足のように操り、迅速に道路を再開できる豊富な経験や技術を持つ人材がいらない現状を。被災した県民のもとに、救援の手を送り込むことができないのです。

危機管理センターのような施設で災害対応の体制構築という側面を強化しつつ、「俺たちが県民の安全を守るんだ」という情熱を持った若手技術者を養成していくことが、当協会の使命であると考えています。

断水に備える大型の受水槽



非常用発電機

倉庫には、災害対応に当たるスタッフ用の食料や飲料水、毛布など、約1700名×3日分が保管されていて、ライフラインが寸断しても3日間は活動を継続できるようなになっています。



備蓄倉庫に保管された非常用の飲料水など

危機事案への迅速な対応が可能に

3階にある広さ約500㎡、200名を収容できるオペレーションルームは、県職員や防災関係機関の職員が一堂に会して、情報収集や対応策を立案します。県内の無線中継所の映像などを同時に映し出せる大型スクリーンや、パソコンの地図をテーブルなどに投影できる装



広いオペレーションルーム

置、電話やパソコンなどを完備した広いスペースが確保されていて、いつ危機事案が発生しても駆けつけて来て、すぐに対応できるようにしています。

2階にある災害対策本部室は本部長（知事）、副本部長（副知事）、本部長（県幹部）や関係機関などが集まり、対応方針や対策を協議し、決定するための部屋です。

同じフロアには、災害時に医療関係者や気象台のスタッフ、運送事業者といった応援部隊がセンターに集まってくる、スムーズに活動するための拠点となるよう複数の災害対策室が確保されています。災害対策室は、自衛隊や警察、消防などが調整を行う部屋でもあり、1階から3階まで計12室あります。

（※自衛隊や消防用の災害対策室は1階、警察用の災害対策室は3階）

この場合は滋賀県内でも大きな揺れが予想されています。さらに、滋賀県の一部が福井県にある原子力発電所の30キロ圏内に入っていることから、原子力災害への対応も重要になると考えられます。県内6カ所に原子力防災用モニタリングポストを設置して、放射線量をつねに測定しています。原子力発電所でトラブルが発生した場合、滋賀県は国や市町、原子力事業者、報道機関と情報共有を図りながら、屋内退避や避難などの指示を発信することになっています。

展示コーナーでは、生活防災に役立つ情報や原子力災害の基礎知識などを学ぶことができます。県民の一人ひとりが危機について学び、災害に備えることで、危機に対応する力を高められるのではないのでしょうか。



壁の一面がガラス張りになっている災害対策本部室



地図データなどを投影できるプロジェクター

「自助」「共助」の主役である県民の防災力向上を目指して

滋賀県防災危機管理監 西川 美則

このセンターの特徴は、大きな災害が発生しても、危機管理の拠点としての機能を維持できるよう、免震構造のほか発電設備や防災井戸など、さまざまな設備を整えた点にあります。複数の災害対策室を確保して、被災地からの要請がなくてもやって来る、いわゆる「ミッション」型の支援も受け入れられるようになっていています。災害が発生した時にはスピードが大切になります。そのため、関係機関や応援部隊がセンターに到着してすぐ活動できるよう、スペースや設備が整えられています。

また、研修・交流プログラムを策定して、関係機関だけでなく県民のみならず、研修・交流拠点として活用していただけることも大きな特徴です。

県民や自主防災組織などを対象にしたプログラムとして、「自主防災組織リーダー研修会」や「災害から子どもを守る研修会」「夏休み防災・気象セミナー」「赤十字救急法基礎講習」「原子力防災講座」など、さまざまな研修が実施される予定です。

防災に関する展示を実施しているほか、防災関連の



DVDや紙芝居などの貸し出しも行っています。

行政ができることは限られています。「自助」「共助」の主役である県民や、地域住民同士が、顔の見える関係づくりに普段から取り組むことで、地域防災力を高めていただくことができます。

また、災害時の初動や復旧時、防災訓練への協力など、地域の安全・安心に欠かせない存在である、地域の建設会社のみならずのご協力がぜひとも必要になると考えています。

一人でも多くの県民の方々に、このセンターを普段から活用していただき、防災の知識を深め、地域防災力を向上させていただきたいと思います。

地域の活性化を目指し、桑栽培を復活



桑栽培で地域の活性化を目指す吉澤克美社長

農業生産法人
有限会社 永源寺マルベリー
東近江市永源寺高野町201番地
0748-27-0772

<http://www.eigenji.net/mulberry/>



耕作されなくなったかつての茶畑を活用した桑畑

桑栽培で地域の活性化を目指す吉澤克美社長



農業生産法人として地域の雇用創出にも貢献している。

「商品として開発・定着するには時間がかかる。事業を継続していくためには、桑に



自社製品の「永源寺ミドリリン」と「永源寺ミドリリン 桑茶」

平成18年、永源寺で官民合同による「桑サミット」を開催し、取り組みをアピールしたほか、毎年11月14日の世界糖尿病デーには、臨済宗永源寺派大本山永源寺のブルーライトアップを実施しています。

また、平成24年には、滋賀銀行主宰の「エコビジネスフォーラム2011 サタデー起業塾 しがきん野の花賞」を受賞したり、農林水産省の平成23年度「食と地域の『絆』づくり 選定事例」の認定を受けるなど、農業を通して地域の活性化を目指す活動が評価されました。



新たな健康自然食品の材料となるアシタバ(右)や月見草(左)の栽培も始まっている。

桑葉の乾燥粉末を健康補助食品として商品化

桑にはカルシウムや鉄、亜鉛のほかに、DNJ(1-デオキシノジリマイシン)という成分が豊富に含まれています。DNJには、腸内の糖分の吸収をゆるやかにし、食後の血糖値の上昇を抑える作用があることから、高血糖や糖尿病を予防する効果があるとされています。

同社では、2年かけて桑の葉を乾燥・粉末にした「ミドリリン」を商品化し、平成18年に販売をスタートしました。現在は、永源寺桑葉100%の自社製品『永源寺ミドリリン 粉末タイプ』『永源寺ミドリリン 錠剤タイプ』『永源寺ミドリリン 桑茶』のほか、委託者のブランドで製品を製造するOEM生産にも対応しています。

続く次の製品の準備に、今から取り組んでおく必要がある」と言う吉澤社長。同社では、新たな健康自然食品の材料となる、柿やビワ、ハスの葉の粉末を取り扱うほか、アシタバや月見草(オオマツヨイゲサ)などの栽培にも取り組んでいます。



地酒にまつわるイベントで長浜の魅力を発信

1月16・17日の2日間にわたって、「呑め！解け！遊べ！地酒フェスタ」が開催され、会場となった長浜市大手門通り商店街周辺はたくさんの方の参加者でにぎわいました。

イベントを企画したのは、授業の一環として中心市街地活性化「長浜魅力づくりプロジェクト」を履修した、長浜バイオ大学2年生イベント実施時(の32名のみなさん。地の酒づくりのほか、脱出ゲームやイベントを企画したみなさんにお話をうかがいました。



地元食材を使った料理「パイオ盛り」

長浜の街を歩いて問題を解く脱出ゲーム

滋賀の地酒を楽しむ「地の酒フェスタ」

●まず地の酒プロジェクトについて紹介していただけませんか。
田植えや稲刈りなど酒米づくりから開き米吟醸「長濱」ができました。フェスタではこの地酒のほか、県内の10酒蔵の地酒と地ビール、ワイン、滋賀県立大学と龍谷大学の学生が開いた地酒も楽しんでもらえるようにしました。

●特別な料理も考案されたそうですね。
レシビ班は料理研究家と一緒に、伊吹大根やブラックバス、赤こんにやくなど、滋賀の食材を使ったメニュー「パイオ盛り」の開発に取り組みました。この料理は市内で切ってきた竹を器にして盛りつけました。また、飲食店にも声をかけて、おつまみになるメニューを出店していただきました。

●昨年引き続き、企画された脱出ゲームはどんな内容ですか。
ストーリーに基づいて一つずつ謎を解きながら、長浜の街中を歩いてもらうというもので、今回はファミリー・子ども向けと、大人向けの2つのゲームを企画しました。ゲームを楽しみながら長浜のいいところを知ってもらうという狙いがあり、今年は14組の参加者がチャレンジしてくれました。

●その他にも当日を盛り上げる企画があったそうですね。
利き酒大会や杉玉づくりなどの関連イベントのほか、姉妹都市・兵庫県たつの市の特産品の販売なども行いました。

●今回、後藤さんはリーダーとして学生をまとめられたということですが、どんなことに苦心されましたか。
このイベントに、私たちは一から取り組んだので、準備に約4カ月間要しました。32人も個性の強い学生が集まると、意見をまとめるのがすごくたいへんでした。話し合いを繰り返す中、自分の意見を理解してもらうにはどうすればいいかということだけでなく、人の意見をちゃんと聴くこと、聴く力、の大切さがわかりました。

●脱出ゲームは商店街の方に協力をお願いされたということですが...
長浜商店街連盟のみなさんに協力をお願いしたり、ゲームで使う甲冑を借りる交渉をしたり、初めての体験で学んだことがたくさんありました。ゲーム班のメンバー同士、意見がぶつかり合うこともありましたが、最後は一致団結して当日を迎えることができました。

●良かったと思うこと、印象に残っていることもいろいろあると思いますが...
お米農家の方、酒造会社の方、伊吹大根を作っておられる方、地元の漁協や商店街のみなさん、ゲームに協力してくださった劇団員の方々、いろいろな方と関わりを持てたことがとても良かったと思います。

こんなにたくさんの方々の巻き込んで、大きなトラブルもなくイベントを終えることができ、本当に良い経験ができたと思っています。長浜の街や日本酒への関心が高まってきました。



最後に「長浜魅力づくりプロジェクト」で、学生の指導に当たっていただいた松島三児教授にお話をうかがいました。

長浜バイオ大学『長浜魅力づくりプロジェクト』のみなさん
(写真左から)松島三児教授、原田大輔さん、加藤美喜さん、園部浩史さん、後藤 匠さん、西村見成さん、東田拓也さん(町家プロジェクト)

最後に「長浜魅力づくりプロジェクト」で、学生の指導に当たっていただいた松島三児教授にお話をうかがいました。

学生の多くは滋賀県南部や県外の出身者で、長浜の中心市街地を訪れることも少なく、市民との交流もほとんどありませんでした。

そこで大学としてこのプロジェクトを立ち上げることにし、その後、地域住民との交流拠点となる町家キャンパスを開設したことにより、交流会や講座、サイエンスカフェなどを、学生たちが自主的に企画するようになりました。

そういった地道な活動を通じて長浜の町のさまざまな人と交流し、つながっていくことができ、それが今回のイベントにも役立ったと思います。学生たちはコミュニケーション能力を伸ばし、チームワークの大切さを学びました。

また、この長浜や滋賀の魅力に気付いてくれたこともたいへん有意義なことだと思います。これからも地域に開かれた大学として、交流を深めていきたいと考えています。

近現代産業遺産を訪ねる 琵琶湖疏水ウォーク

大津市→京都市

琵琶湖から京都に水を引く琵琶湖疏水の開削工事が始まったのは明治18年のこと。明治維新で都が東京に移り、活気を失った京都の復興を目指して、時の京都府知事 北垣国道は、琵琶湖と宇治川を結び舟運を開き、水力を利用して産業を興すため、琵琶湖疏水の建設を計画します。

東京の工部大学校（東京大学工学部の前身）を卒業したばかりの若き主任技師 田邊朔郎のもと、わが国で初めての堅坑工法による全長2,436mの第1トンネルの工事など、ほとんど人力によって難工事を成し遂げ、5年後の明治23年に完成しました。



田邊朔郎の銅像

その後は、水力発電によって路面電車が走り、新しい工場が次々に開設され、京都の街は活気を取り戻しました。20年後には第2疏水が完成して、京都市民に水道水を供給できるようになりました。それから100年以上経った今も、琵琶湖疏水の水を供給し続けています。

コース

- 浜大津
- 大津開門
- 第1トンネル入口
- 長等公園
- 小関越え
- 第一堅坑
- 第1トンネル出口
- 諸羽トンネル入り口
- 第2トンネル入口
- 天智天皇陵
- 日本初の鉄筋コンクリート橋
- 第3トンネル入口
- 第3トンネル出口
- 蹴上インクライン
- 琵琶湖疏水記念館



スタート

疏水に流れ込む水量を調整しつつ、水面に高低差のある場所で、水面を昇降させて船を行き来できるようにする開門を設けた施設。船の航行は昭和23年に廃止されましたが、現在も水位調節機能を果たしています。



こぜきこ 小関越え

写真：ひむこビジュアルズビューロー



第一堅坑

全長2,436mの第1トンネル（長等山トンネル）の掘削工事では、垂直に47mの堅坑（シャフト）を掘り、両側に向かってトンネルを掘り進めていく堅坑方式がわが国で初めて採用されました。



もうは 諸羽トンネル
昭和45年に諸羽トンネルが完成するまで、第1疏水は諸羽山の裾を迂回して流れていました。完成後、もとの水路は埋め立てられ緑地公園として整備されました。



天智天皇陵
第38代天智天皇の山科陵が疏水のすぐそばにあります。樹木に覆われた上円下方墳で、御陵の前はよく整備された広場になっています。昭和5年に御陵の裏手の疏水が決壊して大改修工事が行われました。



水面の高低差のある蹴上船溜りと南禅寺船溜りを結ぶ延長582メートル、勾配15分の1の傾斜鉄道。船を乗せた台車を引き上げる運転用の巻き上げ機には、蹴上発電所の電力が利用されていました。



ねじりまんば
強度を増すため、ねじりような形で内側のレンガが積まれた歩行者用トンネル。北垣知事の揮毫による「雄観奇想」「陽気発処」の扁額が掲げられています。



日本初の鉄筋コンクリート橋
疏水に架かる幅1mほどの小さな橋は、明治36年に造られたもので、専用の鉄筋がなかったため、工事に使われたトロッコのレールが代用されているそうです。鉄筋コンクリート技術は、後の第2疏水の建設工事に活かされることになりました。



ゴール！
琵琶湖疏水記念館
疏水建設当時の図面、工事を記録した絵や模型など、疏水の計画から完成までの歴史を展示する第1展示室のほか、琵琶湖疏水が果たした役割や、その後行われた第2琵琶湖疏水の開削などの大事業と京都の発展を紹介する展示室も設けられています。

京都市左京区南禅寺草川町17
TEL.075-752-2530
開館時間：3月1日～11月30日
午前9時～午後5時
12月1日～2月末日
午前9時～午後4時30分
休館日：月曜日・年末年始
※月曜日が休日・祝日の場合は翌平日
入館料：無料

扁額ウォッチング

トンネルの出入り口に掲げられた石の扁額は、当時の著名な政治家や建設に関わった人々が、一大事業の完成に寄せる思いを書き記したものです。

●第1疏水第1トンネル東口

きしょうばんせん
氣象萬千

伊藤博文筆

●第1疏水第2トンネル西口

やまにしたががすいげんにいたる
隨山到水源

西郷従道筆

●第1疏水第1トンネル西口

かくとしてそれいることあり
廓其有容

山縣有朋筆

●第1疏水第3トンネル東口

かうしょうしよくをみる
過雨看松色

松方正義筆

●第1疏水第2トンネル東口

じんはやまをもつてよるこびちはみずをもつてなるよるこび
仁似山悦智為水歓

井上馨筆

●第1疏水第3トンネル西口

うるわしきかなさなが
美哉山河

三条實美筆

道づくりで培った技術で CSR活動を推進

株式会社
高陽建設

大津市晴風一丁目15番5号

代表取締役 高安 秀樹



施工例「石山駅前の立体広場橋面工事」



施工例「大津能登川長浜線」



施工例「大津市鶴の里の道路改良工事」



定期的に実施される社内防災訓練



平成25年の台風18号の災害復旧工事



滋賀県委託の道路除雪作業



南郷小学校グラウンドの災害復旧工事

品質管理に取り組み、
優れた技術を積極的に導入

昭和46年創業の株式会社高陽建設。土木工事業、舗装工事業を中心に、道づくりから始まった技術力を活かして、管工事や水道施設工事、造園工事など、幅広く手掛けるようになり、社会基盤整備に貢献してきました。さまざまな道路整備事業や補修工事などを手掛ける同社では、新しい技術力を積極的に導入しています。

たとえば、LB工法があります。マンホールの鉄蓋の受け枠を取り替えた後、あるいは嵩上げを行う場合、従来はカッターで路



LB工法によるマンホール鉄蓋の撤去作業



琵琶湖大橋メロディーロード設置プロジェクト

面を切断して枠を除去していましたが、手動式の油圧フレームリフターを用いることで、路面を切断することなく除去することができ、この工法を用いると、工期が短縮でき、振動や騒音がなく工事が静かに行えたり、廃材を減らしたりするメリットがあります。

また、環境に配慮した路面再生工法を導入するほか、橋上で車が走ると「琵琶湖周航の歌」が聴こえる「琵琶湖大橋メロディーロード」の設置にも携わりました。品質管理と環境マネジメントにも取り組み、平成15年にはISO9001を、平成17年にはISO14001の認証を取得しています。

災害対策派遣など社会貢献活動にも熱心に取り組む

社会貢献活動を熱心に推進する同社は、美知メセナ活動に参加して、毎月、大津市内の道路の清掃や街路樹の剪定、除草などを行っています。また、大津祭りの会場周辺の清掃ボランティアへも参加しています。



大津祭りの清掃ボランティア



美知メセナ活動で道路を清掃

同社では、災害時建設事業継続力認定（BCP）を取得し、社内防災訓練を実施しています。

国道1号線など草津地区の道路維持工事を行っていた平成23年には、国土交通省近畿地方整備局の緊急災害対策派遣隊（TEC-IFORCE）として、東日本大震災や台風12号豪雨災害などの被災地に赴き、被害状況の調査支援活動を行いました。

平成25年には大津市教育委員会の要請を受け、市内の小中学校のグラウンドの災害復旧工事も行いました。また、滋賀県の雪害対策業務委託により、融雪剤散布や除雪作業等も行っていきます。

ワーク・ライフ・バランスの推進

滋賀県ワーク・ライフ・バランス推進企業として登録し、社員がもっと育児や子育てに

人事採用活動用資料を作成して
建設業の魅力を発信

「どうすれば建設業を魅力ある仕事にできるのか。みんなで真剣に知恵を出し合っていたら、人材不足は解消しない。」という高安秀樹社長。そのために同社では、休日や給与などの待遇改善に取り組み、技能講習や資格取得のサポートを行い社員の技術力の向上を目指しています。

さらに、就職セミナーなどで活用するプレゼンテーション資料をパワーポイントで作成するなど、同社の事業内容や社会貢献活動についてわかりやすく説明できるようにしました。

「建設業は、社会に役立つ、やりがいのある仕事であることを伝えていきたい。」と高安社長。待遇改善だけでなく、「最後は人と人の関わりが大切になる」という考えのもと、しっかりとした人材育成方針を掲げ、社内でも円滑なコミュニケーションを図りながら、より良い職場づくりに取り組んでいます。



草津建設事業本部



環境に配慮した路盤再生工法（切削オーバーレイ工法）による「国道303号補助道路修繕工事」



完成後



着工前と



高安 秀樹社長

昨年に引き続き、絵画コンクールの審査に参加させていただきました。「工事ではたらく機械」「道路やビルなどの工事のようす」をテーマに描かれた作品は、働く車をダイナミックに描いたものやリアルな工事現場の様子を描いた写実的な作品から、ロボットで自動化された安全な工事現場や自然環境に配慮した建設機器など、未来のテクノロジーや自然環境の問題を感じさせる作品まで、多彩な表現が集まりました。総評として、どれも素晴らしい作品でしたが、絵の中で人が動く姿が少ないことが気になりました。ハイテクの工事現場もかっこいいですが、人々が協力して活躍する姿も見てみたいと思いました。

第3回 『夢けんプラザ絵画コンクール』



次世代を担う子どもたちに向けて、建設産業の魅力を発信する目的でスタートした滋賀県建設業協会の「夢けんプラザ絵画コンクール」。安全で快適な暮らしを送るためのインフラ整備や、まちの豊かな環境の整備など、多くの役割を建設産業が担っていることや、その役割の大切さに関心を持ってもらい、子どもたちの豊かな感性や観察力、創造力を育むことを目的に開催される、県内の小中学生を対象とした絵画コンクールです。

テーマ 「工事ではたらく機械」 日常にある建設機械やあつらいいなと思う機械
 「道路やビルなどの工事のようす」 住んでいるまちの道路、橋、ダムやビルなどの工事の様子あるいは工事現場で働く人の様子



第2部 小学校高学年の児童
最優秀賞
 「海中の街 建設中」
 小西 慧斗 (5年生)

評 イカやタコ、エビやカニなど海の生き物が、不思議な動く機械になっていますね。実は自然をまねるのはものづくりの基本なんです。今度は、街や家、そこに暮らす人々の服や道具も、すべてを想像してみてください。きつと見たことも無い世界が描けるでしょう。想像が膨らむステキな作品でした。



第1部 小学校低学年の児童
最優秀賞
 「つゆね!! 油圧ショベル」
 榎本 颯人 (1年生)

評 ショベルカーの働く様子がダイナミックに描かれています。ウィーン、ガツシャンと、アームの動きや土砂を掘いとの音を感じます。おじさんに頼んで、実際に現場を見学したのでしょうか。その時の感動が伝わってきます。



「工事現場の車」
 山口 千宙 (5年生)

評 工事現場の広大な敷地と背景のビル群や空を、高さのあるクレーン車がバランス良く繋いでいます。



「はたらくショベルカー」
 小島 涼雅 (5年生)

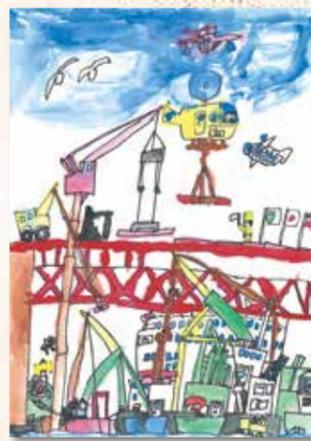
評 法面バケットのついたバックホーが丁寧に描かれています。空や地面の色使いも綺麗な作品です。



「働く工事車」
 山田 優人 (6年生)

評 アスファルトを剥がした地面に、タイヤやキャタピラの轍が繊細な色使いで描かれています。

優秀賞



「車や電車が渡る橋を作る工事」
 古武家 敦也 (2年生)

評 海から空まで、さまざまな機械が働く立体的な画面が魅力的な作品です。



「ショベルカー」
 丸井 湧斗 (2年生)

評 ショベルカーを中心に、遠くに見える街や山へ道がつづく構図が、物語を想像させます。



「新しい町づくり がんばれ!ショベルカー」
 山本 萌愛 (3年生)

評 工現場で働く人や車の様子が丁寧に描かれています。今は素敵な家が建っているのかな。



「カッコイイ双腕仕様機」
 片岡 龍生 (6年生)



「未来の働く機械」
 庄司 叶虎 (6年生)



「道路の工事」
 服部 紘樹 (5年生)

入選



「今日もがんばれ」
 高橋 舞風 (5年生)



「コンクリートミキサー車」
 別所 瑞貴 (5年生)



「パワーショベル」
 丸井 ひなた (4年生)



「きらきらになるきかい」
 西村 優亜 (2年生)



「もぐもぐごー」
 川原林 知佳 (2年生)



「森の中でビルをつくらう!」
 大谷 真愛里 (2年生)



「スーパーあなほりマシン」
 清水 蒼一郎 (2年生)



「きれいなビルをつくっちゃお」
 鍋島 直禎 (2年生)



「工事ロボット『こうじくん』」
 内田 知子 (2年生)

入選

アスファルトってなんだろう

第1回から第3回まで、建設現場で使われる重要な建材である「コンクリート」についてお話ししてきましたが、今回はもう一つの重要な建材である「アスファルト」について触れていきます。



アスファルトの歴史

人類がアスファルトを使い出したのは、紀元前3,000年! 古代エジプトではアスファルトを「ミイラの防腐剤」に使っていたそうだし、旧約聖書では石材の接着剤として「バベルの塔」の建設に使用されたという記述も残っています。日本では縄文時代後期に、「石器や土器の修復」にアスファルトを使っていたことが確認されていますし、日本書紀には668年に天智天皇へ「燃える土」が献上されたという記録が残っています。

アスファルトもコンクリート!?

コンクリートもアスファルトも、建設現場には欠かせない重要な建材ですが、この二つ、広い意味で両方とも「コンクリート=混泥土」に分類されます。

広い意味でのコンクリートは、「砂や砂利を結合材で練り固めたもの」と定義できますが、コンクリートとアスファルトの決定的な違いは、結合材に何を使っているかです。一般的に言うコンクリートは、セメントを結合材にしているのに対して「セメントコンクリート」と呼ばれ、アスファルトは、アスファルトを結合材にしているのに対して「アスファルトコンクリート」と呼ばれます。

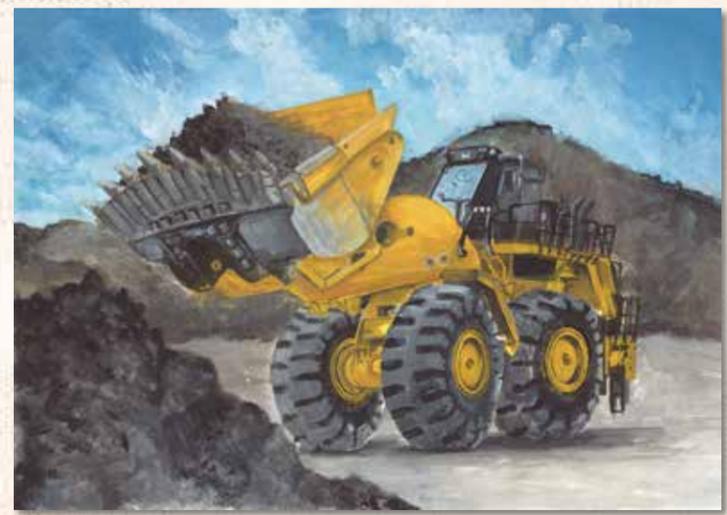
同じコンクリートでも、結合材によって性質が大きく異なるので、性質に応じた用途で活用します。

結合材の違い

セメントは水との「化学反応」で石のように硬くなる結合材です。利点は非常に強度・耐久

第3部 中学校の生徒

最優秀賞
「ホイールローダー」
八木さくら(3年生)



大きなホイールローダーが力強く持ち上げる様子を、しっかりと表現できています。特に、ホイールローダーの手前と奥や、山の稜線と空の広がりなど、微妙な色の変化をきちんと表現することで、光や空気を感じさせる力作です。

優秀賞



「ウルトラロボットOSYAKAくん」
井上 聖花(1年生)

大きなロボットが、工事をしながら木に水をあげたりする様子がユーモアに溢れています。



「家が建つ」
櫻井 澤央(3年生)

繊細に描かれた山並みと、塗り分けられた工事車両のコントラストが、合成写真のようで面白い。



「解体・造成・建築」
横山 柊吾(2年生)

働く車の魅力を存分に感じさせてくれる、独特の世界観をもった作品です。

アスファルト舗装を選ぶ理由

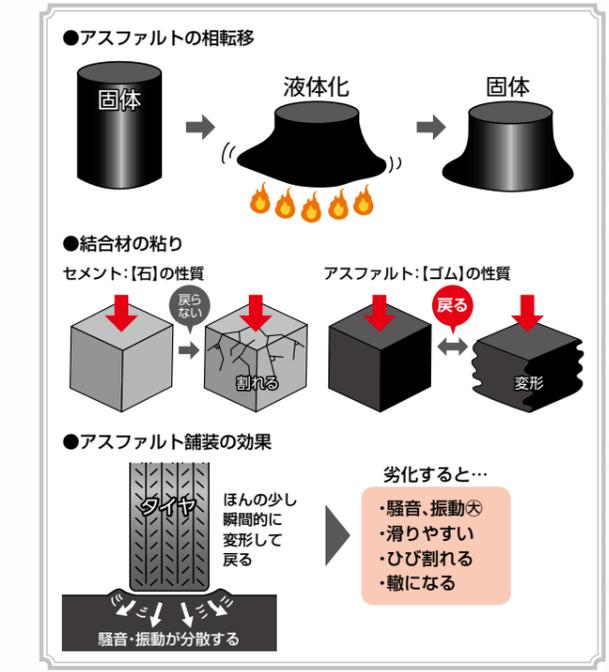
セメントコンクリートは長期的にみると経済的なため、工場や店舗の敷地や駐車場舗装に活用されることが多いですが、道路や橋梁などではアスファルト舗装が一般的です。

理由① 硬化が早い

道路や橋梁は上下水道・ガス・電気工事などで頻りに舗装をめぐることがありますが、そのたびに数日間の通行規制をしては住民の生活に大きな支障をきたします。アスファルトの硬化は数時間です。即日の交通開放が可能なのが利点です。

理由② 変形できる

高速で車両が往來する道路や橋梁ではタイヤとの摩擦で振動や騒音が発生しますが、アスファルトが変形することでそれらある程度吸収してくれる。また、夏と冬の気温差による伸び縮みによるひび割れを低減できます。



理由③ 粘りがある

アスファルトには粘りがあるので、舗装内に隙間をつくっても路面が割れにくい性質があります。透水性舗装や排水性舗装はアスファルトの粘りの賜物です。また、粘りによってタイヤの滑り止め効果も期待できます。

安全を確保するために

アスファルトは劣化すると粘りがなくなると、変形したまま戻らなくなり、轍ができてしまいます。騒音も大きくなり、ひび割れが増え、滑りやすくなります。

定期的な舗装工事は皆さんの安全と快適を守るため、渋滞の温床と冷たい視線を注がずに、温かい目で見守ってあげてください。



「夜でも働く機械」
岡崎 拓夢(1年生)



「ちょっと一休み」
清水 翔太(1年生)



「どんな所も進む『くるくるダンプ』」
樹田 航成(1年生)



「工事現場」
奥村 叶(2年生)



「道路工事」
古田 愛恵(1年生)



「タッチでつくろう建一くん」
林 未朝(1年生)

奨励賞



夢けんせつ春号の取材

夢けんひろば

滋賀県建設業協会や滋賀県建設青年会議などの動きについてご紹介するコーナーです。

★誌面でご紹介する2015年10月から2016年3月までの主な動きのほか、滋賀県建設業協会の動きは協会広報委員会のフェイスブックで発信しています。

11月8日(日) 「滋賀けんせつみらいフェスタ 2015」開催

滋賀県建設業魅力アップ実行委員会の主催で、建設業の魅力を発信する「滋賀けんせつみらいフェスタ」が開催されました。

あいにくのお天気でしたが、会場となった大津港業務用地では、オープニングイベントに続いて、「親子丸太切り競争」などのステージイベントが行われました。

高所作業車やバックホーの試乗体験、ミニテトラポットの製作体験や環境体験教室など、建設業の仕事にふれる体験コーナーが開かれました。また、フォトコンや絵画コンクール作品などの展示コーナーや、模擬店、各種相談コーナーなども設けられ、会場は親子連れなどにぎわいました。



10月28日(水) 本庄協会長がラジオ番組「e-ジャーナル」に出演

本庄浩二協会長が、FM滋賀の「e-ジャーナル」に出演しました。「フォーカスイン滋賀」というコーナーで、滋賀県の建設業の現状や課題、建設業の果たす役割などについて語り、「防災減災」「環境保全」「雇用改善」を柱とした、滋賀県建設業協会のさまざまな取り組みを紹介しました。



12月2日(水) 危機管理センターに実験展示施設などを寄贈

滋賀県危機管理センターのエントランスロビーに展示される、実験展示施設などの寄贈式が行われました。奥田克美副会長らが滋賀県危機管理センターを訪れ、液状化実験施設などの展示物や、緊急時に使用できる工具などを座面下に収容できるレスキューベンチの目録を、西川美則防災危機管理監に手渡しました。



ホームページリニューアルのお知らせ

滋賀県建設業協会のホームページが、この春リニューアルしました。協会の活動や建設業の魅力をもっと多くの方々に発信できるよう、見やすく、使い勝手に優れたサイトになるよう、さまざまな工夫やアイデアを盛り込みました。ぜひ、アクセスしてみてください。

<http://www.yumeken.or.jp/index.html>



2月16日(火)

夢けんせつ春号の取材がスタートし、鈴木委員長ほか広報委員が、危機管理センターや疎水ウォーク、長浜バイオ大学などの取材に参加しました。

2月4日(木)

「フォトコンテスト実行委員会」を開催して、第21回の事業報告と次回のコンテストについて協議しました。

1月18日(月)・20日(水)・2月2日(火)

1月18日、本庄協会長が大津市立藤尾小学校を訪ねて、最優秀賞を受賞した榎本くんが賞状と記念品を授与しました。また、20日には大津市立伊香立小学校の5年生のクラスを本庄協会長が訪ねて、クラスのみなさんと最優秀賞を受賞した小西くんをお祝いしました。また、2月2日には東近江市立聖徳中学校を訪ね、校長先生に賞状と記念品を託しました。

1月4日(月)・3月3日(木)

滋賀銀行で絵画コンクール入賞作品を展示。第3回「夢けんプラザ絵画コンクール」の入賞作品を、1月は本店、2月は滋賀銀行瀬田駅前支店で展示させていただきました。

11月9日(月)

滋賀県土木交通部と滋賀県建設業協会の意見交換会が開催され、さまざまなテーマについて意見交換が行われました。

10月20日(火)

琵琶湖ホテルで近畿ブロック会議が開催され、国土交通省と全国建設業協会、近畿各府県の建設業協会等の関係団体による意見交換が行われました。

10月5日(月)

近畿地方整備局と意見交換会を開催。大津プリンスホテルにおいて、社会資本整備の着実な推進や県内建設業の経営の安定化などをテーマに、近畿地方整備局と意見交換会を行いました。

10月3日(土)

絵画コンクール審査会。成安造形大学特任准教授の宇野君平氏とともに、広報委員会のメンバーらが出席して、「夢けんプラザ絵画コンクール」の審査会を行いました。「小学校低学年の部」「小学校高学年の部」「中学生の部」に分けて、それぞれの入賞作品が選定されました。

絵画コンクール表彰式



大津市立藤尾小学校にて



東近江市立聖徳中学校にて



大津市立伊香立小学校にて



近畿ブロック会議



近畿地方整備局意見交換会



絵画コンクール審査会

生涯剣道で人間形成を目指す 剣道の奥深さに魅せられて

株式会社安田組 代表取締役 **安田 勉**



10歳で剣道の稽古を始めて50年が経ちました。学生時代はともあれ、社会人となり仕事が忙しくなると、思うように稽古ができない時もありましたが、ここまで続けてこられたのは、やはり剣道が好きだったからです。また、良い師匠に恵まれたことも幸いしたと思っています。

剣道は空間の勝負で、対戦相手の心理をいかに読むかといった深いおもしろみがあり、歳を重ねても続けられる武道です。健康を維持できることも魅力ですし、剣道を通じて人脈が広がり、試合や稽古で経験したことが、仕事に取り組み際にも役立ってきたと思います。年齢とともに体力や筋力は衰えても、経験を活かしてそれを補えるよう、修練の余地はまだあります。

今は仕事の後に1時間、集中して稽古をするようにしています。



平成20年に最高位の八段に合格しました。七段を取ってから10年間修業をしないと受験資格が得られません。合格率は0.5%から1%で、最も合格率の低い試験の一つです。上位の試験では試合に勝つだけでなく、立ち姿や正しい剣道ができているので、修業を行ったかどうか評価されます。

海外でも盛んに行われていて、昨年



はイギリス剣道連盟の創立30周年記念に招かれ、ロンドンの道場で指導や交流を行ってきました。

今は地元のスポーツ少年団や滋賀県剣道連盟の稽古会で指導するほか、企業の剣道部で指導することもあります。礼に始まり礼に終わると言われるほど、礼節を尊ぶ剣道では、子どもたちを指導する時は、まず礼儀を教え、さらに協調性や粘り強さを養えるように心がけています。

選手兼監督として出場した第68回東京国体では、強豪を制して、昭和56年のびわ湖国体以来の4位入賞を果たしました。今後は、これに続く優秀な選手を滋賀から輩出できるよう、後進の指導に力を尽くしていきたいと考えています。

「自分で焼く東近江バーガー」と 「永源寺ダムカレー」(東近江市)



「道の駅 奥永源寺溪流の里」にある2つの軽食・喫茶コーナー、地産他消「いかきん茶屋」と岩魚・ジビエ料理「ふる里 まなびや」では、それぞれ地域の特徴を活かしたユニークなメニューを提供しています。



炭火を使って店内で調理する。



パテや卵を自分で焼く「東近江バーガー」

ご飯をダムの形にした「永源寺ダムカレー」

ソフトクリーム「政所茶のソフトクリーム」などもあります。

また、ふる里 まなびやは永源寺ダムの形をしたご飯に、特製カレー、紅葉をかたどった生麩を飾った「永源寺ダムカレー」が人気。コンクリート重力式とロックフィルの複合ダムである永源寺ダムが、ご飯で忠実に再現されています。カレーの具材は、日によって鹿肉、猪肉、岩魚と変わりますが、どれも永源寺ならではの食材。

ほかに、岩魚天丼、ぼたん鍋や紅葉鍋(鹿肉の鍋)の定食のほか、懐かしい給食の人気メニュー「揚げパン」や、政所茶のスイーツなども楽しめます。

永源寺のおいしいもの、いいものを探しにぜひ出かけてみてください。



懐かしい給食メニューの揚げパン

東近江市蓼畑町510「道の駅奥永源寺溪流の里」内
●地産他消「いかきん茶屋」
●岩魚・ジビエ料理「ふる里 まなびや」
0749-29-0123 (直通)

After Word

今年の冬は例年のない雪の少なさで、私の会社がある湖北地区でもほとんど除雪の必要がないくらいでした。生活に不便がないとはいえ、日本の四季が失われているような気がして、少し寂しい気もします。

今回の取材で特に印象に残ったのは、長浜バイオ大学の学生さんたちです。イベントの開催で地元の方との交渉事を進めることで社会人として大きく成長されたことが取材を通してヒシヒシと伝わってきました。

彼らのような実戦経験を積んだ若者たちが、建設業という道を選んでもらえるよう、我々も建設業の魅力をもっと発信していかなければ!と決意を新たにしました。

そんな若者たちに建設業の魅力を伝えるべく、建設業協会のホームページをリニューアルしました。閲覧しやすく、使い勝手が良い事を念頭に、建設業の魅力や協会の活動をお伝えできる構成に仕上げられています。

夢けんせつバックナンバーやフォトコン・絵画コンの過去作品も掲載しておりますので、ぜひご覧になってください!

お花見シーズン真っ只中。ご家族と一緒に桜の名所たっぷりの疏水ウォークを楽しんでくださいね!

- 急存亡
- 険予知
- 空○空論
- 深層心○
- 臨○応変
- 心○一転



パズル クイズ
ペアになっている四字熟語の○の中にはそれぞれ同じ漢字が入ります。
4つの漢字を組み合わせてできる四字熟語は?
ヒント 特集「話題の焦点」

前号の答え

67.5

パズル&クイズ当選者

- 野口 宏さん
- 高木祐美子さん
- 宮脇 達也さん
- 石田 和正さん
- 川島加代子さん
- 芝原 良宏さん
- 鈴川めぐみさん
- 海外富美子さん
- 志村 恵里さん
- 南 利子さん

応募方法

- P&Q及びアンケート(返信用添付ハガキ)の両方にお答えいただいた方の中から抽選により粗品を進呈します。ふるってご応募ください。
- 別のハガキにてご応募の方も住所、勤務先(学校名)、氏名及びP&Qの答え、アンケート、メッセージ等を書いて送付してください。
- 締め切り
平成28年6月20日必着
- あて先
〒520-0801
大津市におの浜一丁目1-18
(一社)滋賀県建設業協会 広報委員会

季刊夢けんせつ春号

2016年(平成28年)4月10日

通巻第683号

発行 一般社団法人滋賀県建設業協会

〒520-0801 大津市におの浜一丁目1-18

TEL.077-522-3232(代)

FAX.077-522-7743

http://www.yumeken.or.jp

企画編集 広報委員会

協力・印刷 宮川印刷株式会社



一般社団法人 滋賀県建設業協会
www.yumeken.or.jp